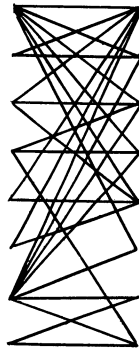


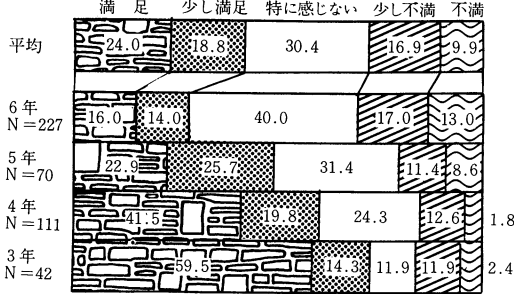
- 友人との協力・助け合い・協同ということの意味
- 友人のすばらしさ、見なおし
- 思いやりのほんとうの意味
- 技術の習得
- 自然のすばらしさ、偉大さ
- 体力への自信
- 友人と活動することの楽しさ、喜び
- その他



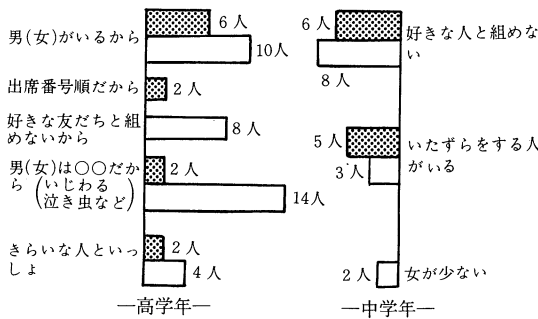
- フィールドワーク (160人)
- キャンプファイヤー (キャンドルファイヤー) (130人)
- 野 営 (110人)
- オリエンテーリング (89人)
- 登 山 (88人)
- オリンピックゲーム (46人)
- ゲーム遊び (30人)
- フォークダンス (23人)

この作文に表れた児童の意識のうち、研修活動から得たことについては、分類イに述べられている。更に、それらの感想がどんな研修活動によって生じたものか。活動内容との関連を見ると次のようになる。

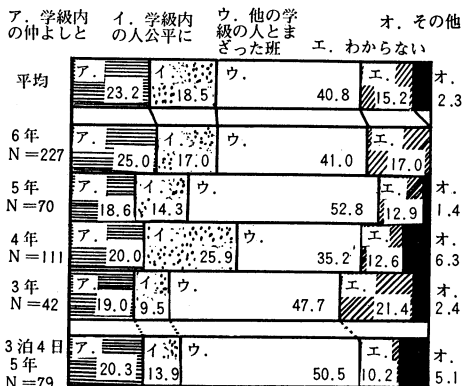
「班の作り方についてどう思うか」—2泊3日—



「班編成についての不満の内容」



「班の作り方について」



理由

- 仲のわるい人だけが残るから(2名)
- 知らない人だけだからつまらなくなるから(2名)
- 友だちでなかった人と友だちになれる(15名)
- 仲良しをふやせる(3名)
- 他の学級の人とよくできる(3名)
- 他の人を見る(4名)

(3) 班の編成のし方と人数は、どうあればよいか。

① 班の編成のし方
 学級を解体した班の編成と解体しないで班編成した場合の、友人に対する意識の違いについては、すでに明らかになっている。交友の広がりや深まりをねらうときには、学級を解体した方が有効である。第二学年の場合、その成果をもとにして、どの学級、どの学年でも学級を解体した班の編成を行ってきた。その場合、男女の別による班編成とせず、男女混合の班とした。

ア、班の編成についての
 児童の事前の意識
 集団宿泊指導の入所の児童に「今

度の班の作り方を、あなたはどのように思いますか」という質問をしたことへの回答が左の図である。

学級をばらし、学年全体で班を作ったことに満足したという反応は、三年生から六年生になるに従って少なくなり逆に不満の度合は、高くなっている。

「特に感じない」の項についての反応が、高学年になるにつれてふえている現象にも注目したい。

児童たちは不満の理由について次のように回答している。

異性に対する反発の声の大きい高学年児童の不满、「好きな友だち」との組み合わせにはずれたことに対する中学年児童の不满、これらの

不満は、集団宿泊指導の事後の調査ではどのように変わっているのだろうか。

イ、児童の事後の意識
 研修終了後、班の作り方についての児童の意識の変化を見るために「班を作るとき、あなたは、どんな方法で作るのがよいと思いますか」の問を發した。その回答が左の図である。

平均で一番多く四十・八%の児童が「ウ、他の学級の人とまとまった班」を作ることに賛成していることは、学級を解体して班編成をしたための効果と考えることができる。

なお「オ、その他」についての反応の中で、男女を別にしての班編成がいいと答えた児童がわずかったが、